ぴっぴだより

No.1　2020.4.7

「抱きしめること」

世の中が落ち着かなくとも、春になり、花が咲き、鳥が鳴き…いつもの「日常」って幸せな事なんだと改めて感じているこの数か月。いつもの「日常」が輝いてみえます。　今日という「日常」を充分に味わいたい、今日という「日常」を子どもたちに保証してあげたい。
めぐってきた春の季節に安心して大きな深呼吸をさせてあげたい。
安心して息を吸い走り回れる「日常」、ゆっくりと森を散歩できる「日常」、お友だちとたっぷり遊べる「日常」、絵本の世界を楽しめる「日常」、美味しくしっかり食べられる「日常」、不思議や気づきの「日常」。
不安な中ではありますが、子どもたちの「日常」を大切にしながら、今年度もぴっぴは歩み出します。ぴっぴの営みが子どもたちを真ん中に、和やかで平和でありますように、と願わずにはいられません。

新しい春を子どもたちはきっと待ちわびていたのでしょう。おおくりさん、くりさん、まつぼっくりさん、一つ大きくなっておめでとう。楽しいことをいっぱい考えようね。
どんぐりさん、入園おめでとう。ぴっぴの森でいっぱい遊ぼうね。困った時や悲しい時、きっとお兄さんやお姉さんが助けてくれますよ。
ぴっぴ開園 14 年目を 42 人の子どもたちと歩み出します。

今年度もぴっぴの保育は当たり前のことを大切にしていきます。ぴっぴの当たり前とは、
「お仕着せではなく、子どもが自分の意思でただひたすら遊ぶこと」
「周りの人の気持ちに気付くこと」
そして、大人は
「それをしっかり支えること」
「抱きしめること」
今年もたくさん抱きしめますよ。子どもたちも、お母さんお父さんたちも！
「抱きしめること」は単に身体的に抱きしめる事だけではなく、「心を抱きしめられた」感覚を育てた子どもたちは、きっと成長と共に「自らを抱きしめることができる」人になるのではないかと思っています。大人も同じですね。健やかな自立の背後には、健やかな依存があるものです。抱きしめ合いましょう。

今年度もぴっぴの時間の区切りは優しい鈴の音。一日の最後の鈴の音はもうすぐお母さんやお父さんに会える！合図。その日一日の心弾ませた心、夢中に遊んで疲れた心、頑張った心、けんかして困った心、うまくいかなくて戸惑った心、…言葉にはならない「いっぱいの心」をしっかり抱きしめてあげてください。「みんなでどうぞ、お母さ～ん！」で、無理なければ走って、思いっきり受け止めてあげてください。ささやかでもこの小さな積み重ねは、親子の大切な繋がりを紡いでいく時と確信しています。

子どもたちにはこの森で安心して、遊んで、関わって、続きををして、けんかして、泣いて、考えて、大きくなってほしいと願っています。こんな面白い世界がある、あんな面白い世界がある、ということにどれだけ豊かに出会うことができるか、そして出会った時、それに没頭することをどれだけ保証してあげられるか…ぴっぴの「たっぷり、ゆったり、じっくり」ですね。
この自分たちの森は「自分を作り、旅立つための母港」です。「母港」は旅立つためだけではなく、いつでも戻り、疲れを癒しほっとし、温かさや信頼を確認する場所でもあります。
それぞれが自分らしくいられることに勇気を持てる場所でもあります。今年度もこの森でみんなが元気になれますように。

遊びを中心とした保育をしていきながら、保育に関わるスタッフは、保育を丁寧に振り返り、子どもたちを深く捉える保育者集団でありたいと願います。森の力を借りて、子どもたちの心の声を受け止めたい。子どもたちのありのままを支えるのに、保育者自身のありのままを受けとめ合えるチームでありたい。新しい一日一日を、子どもたちと保護者の皆さまとわくわくしながら、明日に向かっていきたいと思います。

今まで以上に卒園生保護者の皆さまがぴっぴを支えてくださいます。それぞれのやり方で「縁の下の力持ち」を担ってくださいます。ぽろぴっぴでの在り方もそうです。中高生の卒園生たちも増えてきました。私の背の高さを越した子どもたちも増えてきています。卒園生たちも、「子どもスタッフで行くね」「手伝いに行くね」と声を掛けてくれます。
繋がる嬉しさ、豊かさを感じます。

2020 年度の出発です。ぴっぴという大家族の中で、自分らしさを育んでいきましょう。

：眞弓